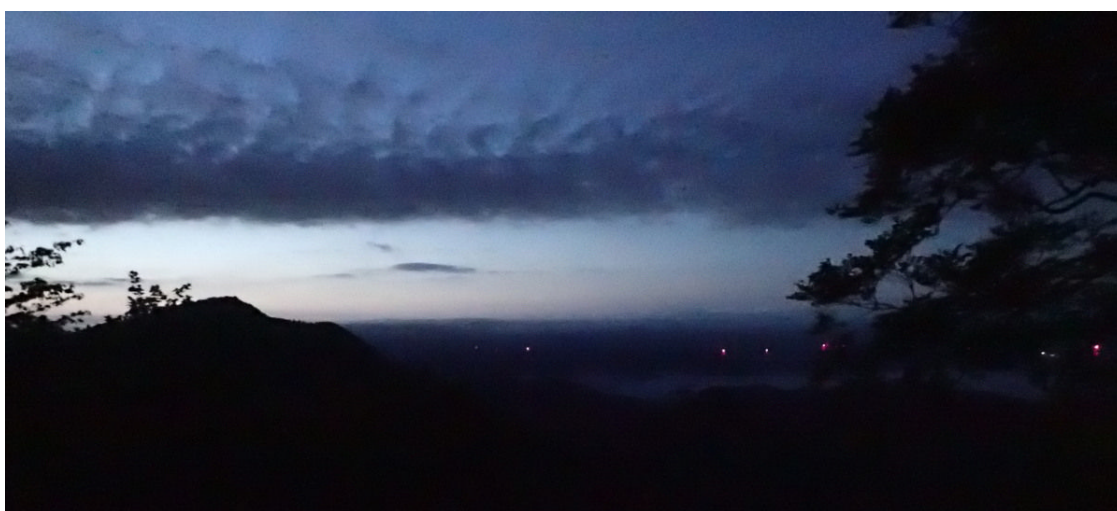


大江山の夜明けと、神崎海岸の早朝(2020.05.22)

*大江山稲荷神社境内の、野鳥の夜明けのコーラス

5月22日の朝0時に起きて車を走らせ、京都縦貫道の宮津立ICで高速を降りて大江山へ向かっていた。普甲峠を越えて宮津市から福知山市域に入って間もなく右折し、大江山稲荷神社境内で夜明けの野鳥のコーラスがどうなっているかを確認しようと思って、老体に鞭打って深夜に出てきたのであるが、人も車もない代わりにシカが多い。ほとんど1頭ずつだが、休耕田と峠のスキー場跡には10頭前後の群れがいた。予報どおり快晴で星空も美しい。15年前までの約20年間は、ごく日常に深夜に家を出て夜明け前の野鳥のコーラスを録音する旅を続けていた。また、この稲荷神社の休憩所を利用させていただくのも綾部高校生物クラブ在籍時からの付き合いで、神主様にも良くしてもらった思い出がある。



久しぶりに境内をパトロールして録音機の設置場所を決め、水音を消す処理をしていると、東の空が白々と明るくなってきた。Webサイトによると、今朝の日の出は4時50分、夜明けは4時21分・快晴・無風・湿度97%・気温10度とある。少し余裕を見て録音機のボタンは4時16分に押してから現場を離れた。ノイズや野鳥への影響を軽減して、ごく自然な録音を録るために私が考案した録音方法である。

一番に鳴き始めたのはクロツグミであった。自動車道を300mほど下まで聴いて歩いたが、昔と比べると鳥が極端に少なくなったように感じた。しかし、これは私の聴力が衰えて高音部が聴き取れなくなったのが主因であることが、帰宅後に録音をオーディオで再生してみたて分った。ヒガラもミソサザイも現地では聴取できなかったのであるが、録音されていたのである。しかしやはり鳥は減った。その理由は何なのだろうか。舗装道路から社叢の森を見上げたり見下ろしたりしているうちに気が付いたのは、林床の変化である。全面、笹で覆われていた林床が丸裸で、林床植物に依存して生きてきた多くの生き物が棲めなくなったのである。小鳥がヒナを育てるのに必要な昆虫の幼虫も減ったのではないだろうか。



不伐の神社の森は健在だった。目の下にある栃の巨木は花を咲かせ始めていたし、上部のミズナラの巨木は大きく枝を広げていた。今、ミズキやムシカリ・フジなどが満開で賑やかな季節を迎え、ヒキガエルも産卵期を迎えているのか、あちらこちらからくぐもった鳴き声が聴こえる。一年中で一番いい季節だ。残念だったのは直前に急に雲が全天を覆い、日の出が見られなかったことである。

帰宅後録音を再生してみて分ったことは、ヤイロチョウやアカショウビン・コノハズクなどの珍鳥がいなかったのはともかくとして、ホトトギスなどの杜鵑類 4 種がいなかったことである。

*舞鶴市神崎海岸のスナビキソウとアサギマダラ

先を急ぐので 5 時前には大江山を後にして、神崎海岸には 6 時過ぎに着いた。弱い北風で曇り、気温は 13 度と低めだった。コロナ禍で駐車場は閉鎖され、数台の自家用車が路上駐車していたが、海釣りのお客さんだった。海岸林はニセアカシアとシャリンバイが満開で、強い甘い香りが漂っていた。ハマナスも開花が始まっていたが何となく元気がないようで、写真を撮りそびれた。舞鶴と小樽を結ぶ連絡船・あかしあ号とはまなす号を記念して植樹されたそうだ。





2017年の台風18号で、沖合の消波ブロックが一か所流されてしまい、やせ細っていた海岸の砂浜はさらに多発する台風により砂が流されたのか、海岸線はさらに後退していた。一時は日本一かと思われたスナビキソウ大群落は流されてしまい、今は直径1mぐらい、十数株のスナビキソウが2か所にしか残っていない。

海水浴場の東端にある、コンクリートで作った段々になった憩いの場の、コンクリートの隙間に生えたスナビキソウだけが流されずに残っており、アサギマダラが2頭来ていた。ネットインして今年のマーキング1・2号となった。

台風が来た年の5月にはアサギマダラが大群で乱舞し、一人で136頭にマーキングしたことがあるが、あんな幸運なことはもう二度と起こるまいと思う。幸運なことというのは、スナビキソウの大群落があり、晴天で気温が適温、風速・風向が見方をしてくれないと起こらない。それ以来毎年この季節には一度は見に来ないと気が済まなくなったのである。海を眺めながらにぎりめしを食べ、自宅に帰り着いたのは10時前であった。